

市民のみなさんが快適かつ安全な生活を送れるように道路を整備する。



松浦 琢弥さん(1993年生まれ)

掛川東高校 出身
愛知学院大学 総合政策学部卒業

掛川市役所

掛川市長谷 1-1-1
https://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→講義を通して問題解決能力を養う→公務員採用試験に合格→市役所に入庁→土木防災課に配属

— 学生時代

「小学校から高校まで野球をやっていた。高校は部活漬けの毎日でした。失敗を繰り返すなかで少しずつ人間形成がされていき、部活を通して人として成長できたと思います。一度環境の違うところで生活してみたいという気持ちがあり、卒業後は愛知学院大学に進学しました」

大学時代について教えてください。

「私が進学した総合政策学部は、幅広い分野を学べる学部です。私は、法学、経済を中心に学びました。先生から与えられた課題や自分で見つけた課題に対していろんなアプローチをかけ、解決に向けて取り組む実践的な講義が多かったです。講義を通して、問題解決能力が身につきました。大学ではソフトボール部に入り、部活にも打ち込みました。4年次は部長を務め、部活を通して主体的に動く姿勢を育むことができましたと思います」

— 仕事について

「もともと地元貢献する仕事がしたいと思っていました。県外の大学に進学したことで、改めて就職するならばやっぱり地元がいいなと思いましたね。育ててもらった掛川に関わる仕事をして恩返しをしたいと思ひ、信用金庫勤務を経て現在は掛川市役所で働いています」

仕事内容を教えてください。

「地元が好きだという気持ちをもって、掛川市がよりよい街になるように仕事に取り組んでいます。現在は、土木防災課用地調整係に配属され



ています。たとえば通学路の安全を確保するために歩道を広げて整備をするなど、市民のみなさんが快適かつ安全な生活を送れるように道路を整備することが私の仕事です。そのために必要な土地を交渉して所有者から購入していきます」

心がけていることは？

「心がけているのは、窓口に来た方の声に耳を傾けること。たとえ私の部署とは関係ない問い合わせだったとしても、「この部署じゃないよ」と冷たく言うのではなく、まずはしっかり耳を傾け、ほかの課へ誘導するようにしています。あとは、わからないことでも一度は自分で考えること。自分なりの考えをしっかりともち、それからほかの方の意見を聞くようにしています」

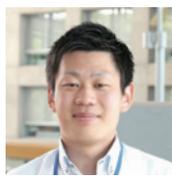
— やりがい

「自宅の近くに、道路がすぐくきれいに整備された場所があるんです。私も利用していて、便利で安全になったことを実感しました。私が整備に関わった道路を利用する方たちにも、そう思ってもらいたいという気持ちをもって日々の仕事に取り組んでいます」

— なるためには

「各自治体の公務員採用試験に合格することが第一歩です。私は就職活動の際、大学のキャリアセンターで面接対策や履歴書の添削などをしていただきました。大学の公務員試験対策講座も活用する役目もついていました。大学のサポートが充実していたので、私は本当に頼りにしていました。高校時代は、とても貴重な時間少しでも興味があることに挑戦してみてください。あとは、外部からのいろんな情報に惑わされず、自分の考え、意思をもって生活をしてください！」

ありがとうございます。



18歳 小学校から高校まで野球漬けの毎日。部活を通して、上下関係などを学ぶ。

22歳 愛知学院大学に進学。講義や部活を通して、問題解決能力や主体性を養う。

27歳 土木防災課用地調整係に配属。市民のみなさんが快適かつ安全に生活しやすい環境を整える。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！
<http://amb100search.com>



災害現場の最前線で消火・救助活動を行い、市民の安心・安全を守る。



袴田元哉さん(1997年生まれ)
浜名高校 出身
愛知学院大学 総合政策学部卒業

浜松市消防局

浜松市中区下池川町19-1
<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/bosai/shobo/index.html>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→公務員試験対策講座を受講→消防職員採用試験に合格→消防学校に入校→各消防署に配属

— 学生時代

「小学校から大学まで、ずっとサッカーをやっていました。県大会の準決勝に進出したことが思い出に残っています。つらくても途中で辞めないこと。目標を決め、それを達成するために努力しつづけることの大切さを学びました。高校卒業後、スポーツ推薦で愛知学院大学総合政策学部に進学しました」

大学時代について教えてください。

「英語や法律についても勉強しましたし、幅広い分野を学びました。中でも印象深かったのは、世界・日本の社会問題で自分が興味をもったテーマを深く調べ、解決策を考えてプレゼンをしたこと。私は温暖化などの環境問題をテーマにして、自分たちができることは何かを探究しました。講義を通し、自分で考えて行動する姿勢を身につけることができましたと思います。災害現場では、危険を瞬時に判断して行動する必要があるのです。この姿勢はとても役立つと感じます」

— 仕事について

「消防職員採用試験に合格後、消防学校で消防の組織や法律、災害現場での動き方や使用する資器材など消防の基礎を学びます。体力的にも精神的にもつらい訓練もありましたが、みんなで声をかけあいながら乗り越えました。改めて仲間存在の偉大さを感じましたね」

現在の仕事内容を教えてください。

「消防の仕事は、火災、救助、救急、予防などに分かれています。その中



でも私は、消防隊と山岳救助隊を任されています。消防隊としての仕事は、火災現場に駆けつけてホースを伸ばし、最前線で消火活動をおこないます。山岳救助隊としては、遭難者や滑落者を引き上げてヘリで運んだり自分たちで搬送したり、救助活動をおこないます。まさに、消防士は『みんなのヒーロー』という言葉がぴったりだと思います」

仕事をやるうえで、心がけていることは？

「駆けつけた現場では、とにかく落ち着くことを心がけています。危険と隣り合わせで、いろんな感情が沸き起こりますが、市民の方や要救助者、他の隊員に不安を与えないためにも、落ち着いて確実に任務を遂行することです」

— やりがい

「やりがいを感じるのには、『ありがとう』という言葉が市民の方に言うていただけるとき。頑張ってたかった、この仕事を選んでよかったという気持ちになります。これから経験を積み『あいつがいれば大丈夫だ』と思ってもらえるような信頼される隊員をめざしています」

— なるためには

「消防職員採用試験に合格することが夢への第一歩です。私は、愛知学院大学のサポートセンターで面接や小論文の対策をしてもらいました。みなさん傾向を把握しているのでも、とても頼りになりました。あとは、絶対に受かってやるという気持ち。熱い気持ちをもって試験対策に取り組んでください。高校時代は貴重な3年間。勉強も部活も大変だと思えますが、メリハリをつけてやるときはやる、遊ぶ時は遊ぶ。まずは、目の前の目標に向かって頑張ってください！」

ありがとうございます。



- 18歳 サッカー漬けの青春時代。目標に向かって努力することの大切さを学ぶ。
- 22歳 愛知学院大学に進学し、英語や法律など幅広い分野を学ぶ。消防職員採用試験に合格。
- 24歳 消防隊、山岳救助隊として活躍。冷静に行動し、確実に任務遂行にあたる。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





「地域」に貢献する仕事特集

「人と人」「人と組織」をつなぐ総合的な人間能力をいかす!

浜松学院大学・現代コミュニケーション学部は、「人と人とのコミュニケーション」や「人と組織とのコミュニケーション」を遂行する総合的な人間能力を地域とのつながりや人間教育を基盤にして育成することをめざしています。



幼稚園教諭/保育士 【幼児教育・保育専攻】

保育の仕事は、子どもたちの心身の発達を促し、社会性を養うこと。子どもの成長にとって重要な役割を担っています。幼稚園・保育園以外にも、ベビーシッターや認定子ども園、学童保育・児童館、企業の託児所など、保育士の資格をもっている人を求めている場所はたくさんあります。

活躍できる現場 幼稚園 / 保育園 / こども園 など



小学校教員 【小学校・特別支援教育専攻】

小学校は、義務教育のスタートになるととても重要な時期。小学校教員は、児童に向けて、中学や高校へ上がるための基礎学力を指導していきます。また、学力だけでなく、協調性や自己肯定感など、心の面でも強く生きていくための基盤を築いていくための指導をおこないます。

活躍できる現場 小学校 / 特別支援学校 など



自治体や企業 【地域政策専攻】

社会で役立つ、政策・経営の知識にもとづく企画立案能力を養います。地域政策専攻は2つのコースに分かれており、政策コースでは、中心市街地や中山間地域の活性化、外国人市民との共生など、地域の問題を分析し、政策立案につなげます。経営コースでは、人と組織、そしてコミュニケーションに注目した経営論を探究します。

活躍できる現場
県庁・市役所・商工会議所
一般企業 など



観光関連産業 【観光専攻】

浜松市は、豊かな自然や歴史遺産など観光資源の宝庫です。これらを対象として、実際にツアーを企画するなど観光の仕組みを学びます。また、国内外の観光に関する専門知識をいかし、地域社会にとって望ましい観光のあり方を多角的な視点をもってマネジメントできる人材を育成します。

活躍できる現場
旅行業・ホテル業
航空・運輸業 / イベント企画 など



外資系企業 【グローバル教養専攻】

多文化理解能力、英語コミュニケーション能力を駆使し、グローバル化する地域社会に貢献する能力を身につけます。地域が抱えるさまざまな課題は、世界の動きと密接につながっています。グローバルな視野をもち、「地域」というもう一つの視点で複合的に物事をとらえ、さまざまな発想を実践に移すことができる能力を身につけていきます。

活躍できる現場
海外事業を展開する企業
外資系企業 など

OPEN CAMPUS 2021

HGU を楽しみ、知る一日。

ネットやVRじゃ伝わらない、「等身大のHGUキャンパス」へようこそ。

要予約・オープンキャンパスの予約はコチラから

7/18 日 8/7 土 8/22 日 9/12 日

時間 / 10:00~12:30(9:00受付開始) 保護者の方もご参加いただけます

※当日のプログラムは決まり次ホームページにて公開します。※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、中止や変更になる場合があります。



HGU 浜松学院大学
HAMAMATSU GAKUIN UNIVERSITY

〒432-8012 静岡県浜松市中区布橋三丁目2番3号

現代コミュニケーション学部
地域共創学科 / 子どもコミュニケーション学科
053-450-7117 <入試・広報グループ直通>
nyushi@hamagaku.ac.jp www.hamagaku.ac.jp/hgu

「わかった!」を引き出せたとき。
やりがいを感じるのは、子どもたちの



木村 未来さん(1992年生まれ)

浜松市立高校 出身
浜松学院大学

現代コミュニケーション学部子どもコミュニケーション学科卒業

浜松市立伊佐見小学校

浜松市西区伊左地町5644

<https://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/isami-e/>

なるためには

- 必要資格 / 小学校教諭免許
- 主な進路 / 高校卒業→小学校教諭免許を取得できる大学に進学→小学校教諭免許を取得→教員採用試験に合格→各小学校に配属

— 学生時代

「小学生のころから幼稚園教諭になりたいと思っていました。浜松学院大学の子どもコミュニケーション学科に進学したのも、幼稚園教諭免許を取得するため。浜松学院大学の就職率の高さや、オープンキャンパスに参加して感じた先輩や大学の雰囲気惹かれたことが進学先を選んだ決め手です。しかし、大学の授業や体験実習などを通して小学生とふれあううちに、徐々に目標が小学校教諭へと移り変わっていきまし。小学生との会話がとにかく楽しかったことを覚えています。その思いは今も変わりません」

大学で学んだことは?

「子どもたちにわかりやすい説明の仕方や指導方法、授業の組み立て方や教材の準備などについて学びました。特に印象に残っているのは、放課後児童クラブの方々に協力していたとき、学園祭で子どもたちと一緒にボードパフォーマンスを披露したこと。仲間と同じ目標を共有し、試行錯誤しながらプロジェクトをやりました。小学校での体験実習では、生の現場ならではの大変なことも多かったです。子どもたちとのふれあいを通して小学校教諭になりたいという思いが、いっそう強くなりました」

— 仕事について

「小学校教諭免許を取得し、教員採用試験に合格後、現在は浜松市立伊佐見小学校に勤務しています。子



— なるためには

どもたちへの各教科の学習指導はもちろん、学校行事の企画や運営など、教員の仕事内容は幅広いですが、ただ授業をして勉強を教えるだけでなく、「できた!」という瞬間に感じる達成感や、運動会や音楽会などの大きな行事を成功させるための協調性なども伝えていきたいです。そのためにも、日々の準備がとても大切になってきます」

— やりがい

「子どもたちの個性に合わせた長所を伸ばす声かけを意識しているのですが、なかなかうまくいかないことや落ち込むこともあります。しかし、ちょっとした工夫で子どもたちの「わかった!」という声を引き出せたときは大きなやりがいを感じます。大きな学校行事が終わったあと、子どもたちの一回り大きく成長した姿が見られたときもうれいすね。今年度は6年生の学級担任をしているのですが、そういったうれしい場面が何度もありました! 私が子どもから教えられることも多いです。子どもと一緒に自分も成長できること、それがこの仕事の魅力だと思っています」



自分探し

18歳

当時の目標は幼稚園教諭。夢を実現するために、浜松学院大学へ進学。

22歳

大学で学ぶなかで、次第に小学校教諭へと目標がシフト。小学校教諭免許を取得。

28歳

子どもたちの長所を伸ばす声かけを意識し、日々の授業や学校行事を通して成長をサポートする。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



「まずは、小学校教諭免許が取得できる大学に進学することが第一歩です。オープンキャンパスに参加して大学の雰囲気を感じてみてください。取得できる資格や就職率も調べてみてくださいね。浜松学院大学では、保育士、幼稚園教諭から小学校教諭まで子どもに関わる資格が取得できます。私はもともと幼稚園教諭をめざしていましたが、学ぶなかで小学校教諭という明確な目標ができました。漠然と「子どもとふれあう仕事に就きたい」と思っている人にもおすすめですよ!」

ありがとうございました。

大学のキャリア実績を学ぶ

141年の「伝統」だけでは終わらない

東京薬科大学という「強み」と「実績」

薬系大学No.1の卒業生数

41,735名

就職率(2021年3月卒業生)

■ 薬学部 ■

99.2%

■ 生命科学部 ■

93.5%

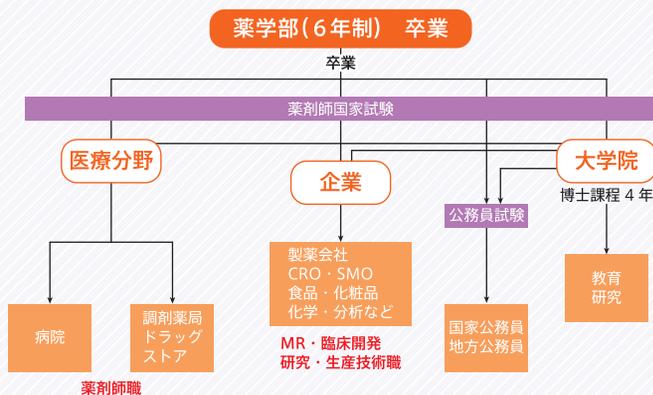
第106回 薬剤師国家試験合格者数

全国1位 383名

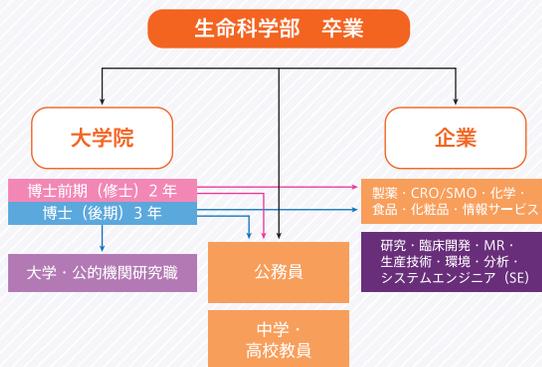


薬剤師国家試験合格者数の数、社会で活躍する卒業生の数が学生にとっての「強み」となり、また、低学年次からのキャリアサポートによって高い就職率という「実績」を誇っています。

薬学部出身者の進路



生命科学部出身者の進路



東京薬科大学では充実したキャリア教育のもと、薬学部・生命科学部ともに例年90%を超える就職率を誇っております。薬学部では、薬剤師として病院や薬局・ドラッグストアに勤める他、製薬企業・治験企業・化学・食品・化粧品などの分野において研究・開発・生産技術職など様々な進路が開かれています。生命科学部は、企業への就職の他、卒業生の半数が大学院へ

進学している研究志向の学部です。学部・大学院の卒業生ともに製薬企業・治験企業・環境・化学・食品・化粧品・情報サービス業の他、理科の教員、公務員など幅広い分野で活躍しております。創立141年の歴史を持つ本学の卒業生は、社会の信頼厚く、多くの分野において重要なポジションで活躍しています。

『現場で求められる薬剤師に』

東京薬科大学では「人を診るというマインド」を常に養える教育が実践されています。本格的な生体シミュレーターを用いた身体診察技法の実習、100名を超える模擬患者参加型実習を行う独自の取り組みで、質の高い実習を行っています。これが現場で求められる薬剤師の育成となり、高い就職率へとつながっています。



東京薬科大学

OPEN CAMPUS 2021

8/1
SUN

8/21
SAT

8/22
SUN

9/18
SAT

東京薬科大学 入試センター 〒192-0392 東京都八王子市堀之内1432番地1

<http://www.toyaku.ac.jp/> ☎ 042-676-5112

商品の魅力を得意先にしっかり伝え、商品とお客様をつなぐ役目を担う。



大戸 雄貴 さん(1997年生まれ)

静岡東高校 出身

東京薬科大学 生命科学部 応用生命科学科卒業

森永製菓株式会社

東京都港区芝5-33-1(本社)

<https://www.morinaga.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、食品科学など食品分野について学ぶ→食品メーカーに就職→営業職として勤務

— 学生時代

「高校時代に意識していたのは、部活と勉強の両立です。平日は、部活後に塾へ通う毎日。勉強にもきっちり取り組んでいたのですが、東京薬科大学には指定校推薦で入学しました。学科は、応用生命科学科。高校の文理選択で理系の生物を選択し、微生物や細胞などに興味をもったのが学科を選んだきっかけです。微生物で発電実験をした微生物学などを中心に、1年次後期からはさまざまな実験が始まりました。実験、ことに書くレポートで、毎回私が意識していたのは「考察」について。実験には、目的、方法、結果があるのですが、ただ結果を受け止めるのではなく、『なぜこの結果になるのか?』という「考察」を特に大切にしています。大学で身につけた考察力は、社会に出てからも役に立っています」

就職活動について教えてください。

「製菓企業に就職する学生が多いなか、私が選んだのは食品メーカーです。3年次に食品科学系の講義を受け、それ以来、食品分野に興味をもちました。食べることが好きだったこと、研究してきた酵素や微生物の知識がいかにせることも食品業界を志望した理由のひとつです。大学卒業後は森永製菓に就職しました」

— **仕事について**

「営業という仕事は、会社の最前線。仕事の成果が数字として現れてくるポジションです。スーパーマーケットの本部で商談をおこない、その提案次第で新商品が売場に並ぶ



かどうかが決まります。お客様や得意先の声をもとにマーケティングをして、いい商品を開発しても、その魅力を正確に伝えられなければ、店頭で並んでお客様が手に取ることはありません。商品の魅力を得意先にしっかり伝え、商品とお客様をつなぐ役目を担っています」

今後のビジョンはありますか?

「総合職で入社した社員の多くは、最初は営業職につきまます。そのあとのキャリアアップは自分次第。将来は、大好きなお菓子やアイスの新商品開発、マーケティングに関わる仕事に取り組みしていきたいです」

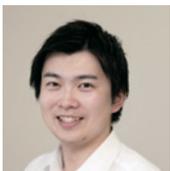
— やりがい

「お客様が弊社の商品を手に取ってくることがやりがいにつながります。私たちは、ただ商品を扱ってくださという営業ではなく、課題解決型提案を大切にしています。得意先がどんな課題を抱えていて、それを解決するために、営業としてどんなアプローチができるのか。自社のエゴだけでなく得意先に寄り添う姿勢で提案をします。その提案が採用され、思い描いた売場が実現できた時のやりがいは大きいです」

— メッセージ

「特に必須資格はありませんが、商品に対する愛情は必要です。私は大学での学びが社会に出るうえで重要だったと感じます。1年次に受講した『生命科学と社会I』では、大手メーカーの方から出された課題に対する回答をグループで話し合いました。リアルなマーケティングの思考を学ぶことができましたし、話し合ったアイデアを発表する機会があり、それを企業の方に評価してもらえたことは大きな経験になっています。東京薬科大学ならではの実践的な学びだったと思います」

ありがとうございます。



18歳

↓

22歳

↓

23歳

部活と勉強の両立を実現。高校卒業後、指定校推薦で東京薬科大学へ。

講義や研究を通して食品分野に興味をもち、大学卒業後、森永製菓に就職。

商品の魅力を伝え、店頭で並べるのが営業の役目。会社の最前線で仕事に取り組む！

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



お客様が最初と最後に接するのが、
ホテルの顔であるフロントです。



大高 紬也さん(1994年生まれ)

静岡南高校 出身
関東学院大学 人間環境学部卒業

ホテルアンピア松風閣

焼津市浜当目1541
https://www.syofukaku.com/

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→接客のアルバイトを
経験→ホテルに就職→フロントに配属

——学生時代

「高校時代は、ギター部の部長を経験しました。老人ホームで演奏会をしたり、文化祭で演奏したり、演奏を通して人前に立つことに慣れることができたと思います。卒業後、関東学院大学に進学しました」

「大学時代について教えてください。」

「服飾、デザイン、インテリアなどを幅広く学びました。大学ではダンス部に入り、よりいっそう人前に立つことも緊張しなくなりました。一番印象に残っているのもダンス部の経験。お客さんに見てもらうために寝る間も惜しんで練習をしました。何かをして相手によるこんでもらうことが自分は好きだということにも気づきました。それもあってサービス業を自然と選んだのかもしれない。大学卒業後、ホテルアンピア松風閣に就職しました」

——仕事について

「最初に学んだのは接客の基本であるあいさつから。当ホテルは、レストラン、フロアサービス、フロント、ブライダルなどの部署に分かれており、最初はみんなでレストランサービスを経験しました。レストランと言っても、料理を出すだけの仕事ではありません。団体だと100人以上を相手にすることもあって、水がない、箸を落としたなど、さまざまな困りごちに気づけるよう常にまわりを見る必要があります。大変でしたが、働くなかで自然と気づけるようになっていきました。現在はフロントで働いています」



仕事内容を教えてください。

「フロントは、よくホテルの顔と言われます。それは、チェックインのときにお客様が最初に接し、チェックアウトで最後に接するのが私たちフロントだからです。対応がよくないとホテル全体が悪く見られてしまう責任重大な仕事。相手に合わせた口調、話し方、おもてなしの気持ちを常に心がけています」

「地元静岡県で働いていることに特別な思いはありますか？」

「近くの観光地やおいしい料理に関する問い合わせも多いです。働く前は、焼津に来たこともなかったのですが、自分でも周辺を回ったりして観光情報を増やしています。仕事を通し、地元静岡の魅力を再発見することができました」

——やりがい

「サービス業として、お客様が笑顔で帰ってくれることが一番のやりがいです。自分のサービスでお客様をよるこぼせる。これは、どの部署でもみんながもっている気持ちだと思います。直接目の前でよるこぼしている姿、楽しんでいる姿を見られるのもうれしいですね」

——なるためには

「特に資格は必要ありません。英語、韓国語、中国語など、海外のお客様を接客できる語学力があると仕事に役立つと思います。この仕事は、できるだけお客様のご要望に応えることが大切。無理な要望もただ断るのではなく、どうすれば応えられるかを考えるようにしています。高校生活を通して、いろんな人と接する機会や人前に立つ機会を増やしてください。いろんな人とコミュニケーションをとると、自分の視野が広がりますし、柔軟な考えをもてるようになりますよ」

ありがとうございます。



18歳 ギター部に所属し、さまざまな場所で演奏をおこなう。部長を経験。
↓
22歳 ダンス部の経験を通し、自身がサービス業が向いていることに気づく。卒業後、ホテルアンピア松風閣に就職。
↓
27歳 相手に合わせた接客、おもてなしの気持ちを忘れずに、日々お客様を迎える。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！
<http://amb100search.com>



現場に出てみると、想像以上に
成長や感動を間近で感じられます。



梅藤 優香

さん(2000年生まれ)

浜松湖北高校 出身

豊橋創造大学 短期大学部 幼児教育・保育科卒業

学校法人アソカ学園 百花幼稚園

浜松市北区根洗町1497-2

<http://www.asokagakuen.jp/momohana/>

なるためには

- 必要資格 / 幼稚園教諭免許、保育士資格
- 主な進路 / 高校卒業→養成課程のある短大・大学に進学→幼稚園教諭免許、保育士資格を取得→幼稚園に就職

— 学生時代

「この仕事をめざしたのは、高校3年生の5月くらいです。きつかけは、未来を想像したときに自分が一番いきいきと働いている姿を想像できたのが保育関係でした。昔から子どもが大好きだったこともあり、高校卒業後は、豊橋創造大学短期大学部に進学しました」

短大時代について教えてください。

「子どもとの関わりや発達、成長過程について学びました。印象に残っている授業は、音楽や歌に合わせて自分で振り付けを考える身体表現。歌う踊るといった表現や造形の授業に長けている先生が多かったの、いろんな身体表現能力を身につけることができたと思います。ピアノは大学に入るまでさわったことがないくらいのレベルだったので不安でしたが先生が1対1で一人ひとりに合わせて指の動かし方から指導してくれました。そのおかげで、卒業するころには一番難しい楽譜も弾けるようになりました。大学で学んだ手遊びやピアノなどは実習でもとても役立ちました。一方で、子どもにも合わせた言葉がけや関わり方は1、2週間で掴むのは難しかったですね。実習で印象に残ったのは、まずは先生自身が心から楽しむこと。先生の楽しそうな表情や動きを見て、子どもも楽しむということを実習を通して実感しました」

— 仕事について

「いろいろな遊びや活動を通して子どもたちの成長をサポートするだ



けでなく、友達の輪を広げたり新しい発見に気づいたりしてほしいです。あとは、思いやりの心も身につけてほしいですね」

日々の活動を教えてください。

「週ごとに決められている目的や狙いを基準にして、前週の子どもの様子や天候に合わせて、日々の活動を考えます。たとえば4月は、『幼稚園に来ることが楽しいと思ってもらおう』という目的に合わせて、たくさん園庭で遊び、スキンシップを取りながら、お気に入りの遊びや、安心できる場所を見つけれられるように援助していきます」

— やりがい

「子どもたちが私を見つけた瞬間、『先生！』って駆け寄って来てくれることにやりがいを感じます。安心感を与えられていることを実感できます。大学生のときも『子どもたちの成長を見られることが魅力』だと思っていました。現場に出てみると、想像以上に成長や感動を間近で感じられます。ずっとひとりでの好きなことをしていた子が、まわりと関わるようになったり、先生のお手伝いをしてくれたり、小さな成長を毎日見られることがうれしいです」

— なるためには

「幼稚園教諭免許と保育士資格両方取得することをおすすめします。まずは養成課程のある学校に入学して専門知識を学んでください。私は豊橋創造大学のオープンキャンパスに参加し、先生と学生の距離が近くて楽しそうだったのが進学先を選んだ決め手です。ピアノを弾く部屋など、大学の施設が充実しているのも魅力的でした。子どもも保護者も先生もいろんな人がいるので、高校時代は、視野を広げたり、いろんな価値観にふれる経験をたくさんしてください」

ありがとうございます。



自分探検

18歳 一番いきいきと働く姿を想像できた保育の道に進むことを決心。

20歳 豊橋創造大学短期大学部に進学し、発達過程やピアノ、身体表現などを学ぶ。

21歳 一人ひとりに合わせた関わりを大切に、日々子どもたちと向き合う。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



自分の仕事が「ありがとう」という言葉になって返ってくる。



森木 和也さん(1988年生まれ)

榛原高校 出身
愛知学泉大学 家政学部卒業

森木農園

牧之原市東萩間115
<https://moriki-nouen.com/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、衣食住について幅広く学ぶ→農園で働きはじめる一年間を通し、農産物づくりから販売までのノウハウを学ぶ

— 学生時代

「高校時代を振り返っても野球の思い出しかないですね。ゴールを見据えて努力しつづける大切さを学ぶことができました。当時は野球部を指導する先生になりたいと思っていました。料理が好きだったので家庭科の先生に。高校卒業後は、愛知学泉大学家政学部に進学しました。男性が家庭科の教員免許を取得できる学校は限られており、その中のひとつが愛知学泉大学でした」

「衣食住について幅広く学びました。たとえば、育児や離乳食に関することも学びましたし、栄養の知識の授業もありましたね。学生会長を務めていたので、企画が思いついたらみんなで集まってそれを実現させたりと、大学生生活は本当に楽しい思い出ばかりです。先生にもいろんな行事に参加してもらいましたよ」

— 仕事について

「教員免許は取ったのですが、自分の力が社会で通用するのかわを試したくなり、一般企業に切り替えて就活を始めました。大学卒業後は商社などの仕事を経験し、27歳のときに家業である農業の道に進みました」

「おいしい農産物を作ることはもちろん、森木農園のファンづくりも大切な仕事。『ここに来たら、おいしいものがある』と思ってもらえるように工夫しています。もともとお茶のみの栽培でしたが、年間を通して



お客様によるこんでもらえるよう、春にいちご、夏にメロンを作りはじめました。これから秋に向けてぶどうも植え付けていく予定です。『農家で作るかき氷』という打ち出しで、かき氷を始めたことも分岐点になったと思います。かき氷やパフェを求めて、いろんなところから足を運んでくれるのでうれしいですね」

心がけていることは？

「お金じゃないところにやりがいを見出し、仕事と生活の両立を意識しています。サラリーマン時代に感じたことですが、金儲けに走ると心が疲弊して幸せじゃなくなるような気がします。あとは、大前提としておいしい農産物を作ること。おき水や通販に傾倒しすぎると本末転倒になってしまいますからね」

— やりがい

「自分が作った農産物をお客様に食べてもらい、『うまい』『おいしい』と言ってもらえること。それが何よりのやりがいです。自然に囲まれた環境で働くことができるのも農業の魅力だと思います。自分の仕事が『ありがとう』という言葉になって返ってくるなんて、めちゃめちゃ幸せなことだと思いますよー」

— なるためには

「まずは、どこかの農園で栽培から販売までのノウハウを勉強したほうがいいですよ。独立には資金や設備投資がネックになってきますが、国からの助成も増えているので調べてみてください。あとは、『何のために、誰のために、何故やるのか』、目的意識を常にもつことが大切です。それがブレるとサービスが変わってしまいますからね。人生の半分は仕事をして過ごす時間だと思っています。だったら絶対に仕事も楽しんでほうがいい。みなさんも、わくわくすることを見つけてください」

ありがとうございます。



自分探し

18歳 野球に熱中した高校時代。卒業後、教員免許を取得するために愛知学泉大学へ。

27歳 森木農園で働きはじめる。いい土壌の作り方、農産物づくりの基礎を学ぶ。

32歳 ゆたかな自然に囲まれて働けることに幸せを感じつつ、日々、おいしい農産物づくりに精を出す。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

